

じどうかん通信

第132号

令和7年7月発行

愛知県児童館連絡協議会

会長あいさつ

愛知県児童館連絡協議会

会長 新村 誠



日頃は、愛知県児童館連絡協議会の事業に対し、関係の皆様方にご支援とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。また、会長として、じどうかん通信への寄稿の機会をいただき、心から感謝申し上げます。

去る4月25日に開催いたしました「令和7年度愛知県児童館連絡協議会総会」につきましては、小牧市まなび創造館あさひホールで執り行い、新旧役員の皆様方にご協力をいただき、無事終えることができました。改めて感謝申し上げます。

私たちの活動は、地域のこどもたちの成長を支える大切な役割を担っています。これから、こどもたちが安全で楽しく過ごせる環境を提供するために尽力してまいります。

さて、令和6年12月に国の「児童館ガイドライン」が改正され、今年度から運用が始まっています。この改正は、近年の社会の変化やこどもたちの多様なニーズに応えるために、児童館が果たすべき役割を再確認し、新たなスタートを切るものです。

主な改正のポイントをご紹介しますと、一つ目は、児童館の活動内容の充実です。改正後のガイドラインでは、遊びや学びの場としての機能を強化し、地域の特性に応じたプログラムを展開することが求められています。これにより、こどもたちがより自発的に参加し、成長できる環境を整えることが目指されています。

二つ目は、保護者や地域住民との連携の強化です。今後は、児童館が地域のコミュニティの中心的な役割を果たすことが期待されます。保護者や地域住民が共に参加し、協力して活動を支えることで、児童館はより大きな力を持つことができます。

三つ目は、環境への配慮です。こどもたちが安心して過ごせる環境を提供するために、ガイドラインは安全面や衛生面に関する基準をより明確に示しています。

これらの改正点を実現に導くためには、皆様のご協力が不可欠です。今後も、愛知県内の児童館との連携を図り、こどもたちの未来を支えていくための取り組みを進めてまいりますので、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、11月30日に、安城市のへきしんギャラクシープラザで「元気スイッチ on!!あつまれ! あいちのじどうかん」を当協議会主催で開催します。児童厚生員の学びと情報交換の場として、例年多くの方にご参加いただいております。今年も魅力的な場となるよう、役員一同企画してまいりますので、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

10 年表彰を受けて

こまきこども未来館 瓜生 俊基

10 年前、こまきこども未来館の前身である「小牧市児童センター」に人事異動で配属されました。大学卒業後、小牧市の保育園で働き始めた当初は、児童館に関わることになるなんて、まったく想像していませんでした。就職して約 15 年経った頃、異動の辞令を受けた際には、「児童センター？どこ？」という疑問しか浮かびませんでした。

ところが間もなく、児童館の魅力に惹かれ、「ここで働きたい」と思うようになり、保育士を辞める決意をしました。その結果、現在もこども未来館で充実した日々を送っています。新卒から「一生の仕事」と思って就いた保育士の職を辞めたのに、10 年継続してきたことで表彰をいただけたのは、なんとも不思議な感覚です。

では、なぜそこまで児童館に魅力を感じたのか。その大きな理由のひとつは、児童館が「子どもにとって、来ても来なくてもいい場所」であるという点です。そんな“どちらでもいい場所”にもかかわらず、子どもたちが自ら足を運んでくれる。学校帰りの子どもが「うりさん、来たよ～」と顔を見せてくれる。子どもたちがなにかを求めてここに来てくれる。そんな場所を自分たちの手で作れること、自分自身がその「居場所」の一部になれることに、大きな喜びとやりがいを感じました。子どもたちのためと言いながらも、結局は自分のために、児童館を選んだのだと思います。

また、児童館の良さは「職員がオールマイティである必要がない」ことにもあると感じています。得意分野を持った職員同士が、お互いを補い合いながら、子どもたちにとっての居場所をつくっていく。苦手なことがあっても、他の職員に頼ればいい。もっと言えば、子どもたちに頼ってもいい。児童館は、私にとっても「無理をせずにいられる居場所」になっています。それも、周囲の職員や子どもたちに支えられてこそです。

保育士時代は、できないことばかりに目がいていました。でも児童館に来て、子どもと一緒に遊ぶ時間の中で、「遊びを楽しむ力」が自分の特技だと気づくことができました。特に、ボードゲームを通して子どもたちの育ちに関われたら…と密かに思い描いていたことが、いつの間にか自分の“武器”になっていました。

今では県内各地から声をかけていただき、多くの市町の児童館にも伺って、子どもたちと一緒に遊ぶ機会をいただいています。これは、「元気スイッチ on!!」の実行委員として活動する中で、県内の仲間たちと出会えたことが大きなきっかけです。いろいろな人と出会い、多様な考え方に触れることで、自分なりの児童館像を追い求めることができます。

これからも、皆さんから刺激をもらいながら、児童厚生員という仕事を楽しくしていきたいと思っています。10 年表彰をいただき、ありがとうございました。

第3回児童厚生員研修会に参加して

豊山町 しいの木児童センター 松岡由紀子

今回の研修は、午前には愛知県児童館「大治町」と「飛島村」の活動発表、午後に講演とグループワークを行いました。まず大治町児童センターは、「複数の機能を備えた児童センターの運営」と題して、主に子育て支援の視点からの発表でした。児童センターは町内に1施設のみで、社会福祉協議会が町からの委託で実施しており、児童クラブを併設しています。「親子通園療育事業」「かがやき園」について紹介され、保健センターが児童センターの入っている福祉センターと隣接するため、利用者は児童センターでの相談後、保健センターに寄り、保健師に相談することができます。また、相談を受ける側も一つの機関が担っているため、スムーズな情報共有が可能です。保護者を孤立させないように、保護者との信頼関係を構築するため、職員の知識や経験が必要であり、人材確保、育成が重要課題となっています。

次に飛島村児童館は「子どもたちの思いをかたちに」と題して児童館まつりの活動を通しての発表でした。特徴は①複合施設の中に児童館があるため、他の施設と合わせた利用が多い、②義務教育学校（飛島学園）が小中一貫である、③長年続く児童館事業として児童館まつりを開催しているの三つです。児童館まつりを通し、日頃から来館時に子どもたちの話を聞き、関係性を深めることで、「自分の思いを伝えられる、楽しい、自己発揮ができる、学校以外の活躍ができる」という大切な場所に児童館がなれると考えているそうです。

午後からの研修では、市民福祉教育研究所主宰田村禎章先生による「地域共生社会とこれからの児童館づくりの意義」についてのお話でした。先生は福祉、保育、介護と幅広く活躍されており、週に1回、ご自身もボランティアをされています。グループワークでは、話すことで人に聞いてもらえると楽になること（感情の統御）と、話しているうちに頭が整理されること（課題の客観視）が重要であると学びました。加えて「ふくし」とは「ふだんのくらしをしあわせにすること」そして地域みんなで考え、行動することであり、共に支え、共に生きていく社会を創っていく（共育）ことも改めて認識しました。また、地域や人、場所、団体は多様で、様々な課題があり、同時に良い所もあります。住民が主体性を持ち、いかに住み良い町や地域をつくるかがポイントとなります。まちづくりは人づくり。あいさつを参加の一步とし、コミュニケーションがコミュニティになり、実践する人が生き活きと楽しむことが地域住民同士のつながりになると学びました。

最後に「児童厚生員・放課後児童支援員」への期待として、「行動する」ことは、言動すること、思いを持って地域を見守ることが挙げられています。志（願い）は「高く」、敷居（行動）は「低く」、地域との橋渡し、コーディネーター役となって、一所懸命、熱く今を生きる子どもたちと共に未来を作りましょうと締めくくられました。

～行事の紹介～ 児童館合同将棋大会

江南市 交通児童遊園

江南市内には交通児童遊園と2館の児童館があり、交通児童遊園は公設公営、児童館2館は公設民営としてそれぞれ様々な企画を実施しながら運営しています。

その中で1年に3回ほど交通児童遊園・児童館の3館合同で行事を実施しており、例年10月に児童館まつり、11月に将棋大会、3月に卓球大会を開催しています。

特に11月に開催している将棋大会については、棋士の藤井聡太さんが愛知県出身ということもあり、年々将棋に興味を持つ子ども達が多くなってきているように思います。

将棋大会の審判は江南市老人クラブ連合会の将棋クラブの皆様に依頼しており、毎年審判をしながら子ども達の成長を見届けていただいています。

参加者は小学校1年生から6年生で、試合方法はトーナメント方式、1試合10分（決勝戦は15分）で、決着がつかなければ審判が優勢劣勢を判断し勝敗を決めています。

トーナメントはくじ引きで行っているため、当然低学年と高学年が対局することもあります。しかし、「6年生の子と対局だから負けちゃうかな」などと思っていると、結果低学年の子が勝ってしまうということも起こります。改めて「将棋は年齢じゃないな」と思い、そんな状況が見ていて非常にワクワク、楽しく感じています。

次の対局を待っている間も「詰将棋」の問題を配って解いてもらったり、表彰式の準備の間には審判の方にその解説をしてもらったりと、待ち時間も子ども達が楽しめるようにしています。

帰りの際には迎えに来た保護者の方に「勝ったよ～！」と嬉しそうに報告している姿を見ると運営側として企画して良かったなと感じます。

勝った子はまた来年も、負けた子は来年こそという気持ちで、今年度も多くの子ども達が参加して、さらに成長した姿を見せてくれることを楽しみにしています。



【真剣勝負の対局】



【表彰式】

～行事の紹介～ こどもサミットからえのぐ遊びへの実現

西尾市 一色児童センター

2月に実施したえのぐ遊びは、8ヶ月をかけて小学生の声から実現した遊びです。参加人数は、幼児と小学生を合わせて21名、大人は8名でした。

6月に5年生10名により第2回こども会議（こどもサミット）を開催しました。こども達の希望でえのぐ遊びを計画しましたが、こどもの思いの継続が難しくなかなかまとまらず足踏み状態でした。大きい段ボールに白い紙を貼り、絵具遊び用のボードにすることは、こども達の意見で決まっていたので、7月末に来館した小学生の協力を得て、白い紙を貼った段ボールの大きなボードが2つ完成しました。こども達と相談して、えのぐ遊びの開催日はみんなが集まりやすい2月22日の土曜日に決まりました。2つのボードが出来上がり、えのぐ遊びの準備が少しずつ形になってくると、「手形をやりたい」「筆で描きたい」という思いをもっていたこどもが、自主的にPRポスターを作成して来館者に知らせました。

開催3日前には3名のこどもスタッフが決まり、当日はブルーシートを拭いて机を運んだり、絵の具を混ぜて手形用に友達の手に絵の具を塗ったり等、こどもスタッフが遊びの手伝いを率先して行いました。

えのぐ遊びは、いろいろな表現を楽しみ、遊びを通して異年齢のこども達との関わりをもつことをねらいとしました。大きいボードに手形、自由画、段ボールキャタピラーの模様を描き、マーブリングなどをしました。



参加した幼児や小学生は、興味深々でいろいろな画材の表現を繰り返し楽しみ、初めて会ったこども達とも関わりをもつことができました。最後には、作品をバックに参加者全員で記念撮影を行いました。どの子どもとても嬉しそうで、満足気な表情が見られました。当日を迎えるまでに児童厚生員とこども達とでイメージを巡らせ、いろいろな不安もありましたが、小学生からは「楽しかった」「またやりたい」という声が聞かれました。

こどもの声から実現したえのぐ遊びを行うことができ、たくさんのこども達が楽しんできたことで、児童厚生員やこども達にとって貴重な経験となりました。

今後も、こどもの思いの実現に向けて、小さなつぶやきを聴き取り生かしながら、児童館運営を盛り上げていきたいと思います。

～あそびの紹介～ 五感をつかったあそび

大府市 東山児童老人福祉センター

(大府市内の児童（老人福祉）センターは令和7年10月1日からこども（幸齢者）交流センターに名称を変更します)

大府市では各児童センターに『自由参加あそびサークル あんぱんまん』という、就学前の親子が自由に参加できるあそびの場があります。東山児童老人福祉センターでは、親子あそびの中で、五感（特に視覚、聴覚、触覚、嗅覚）を意識して取り入れた、次々と展開するあそびをやっています。その中で、特に人気のあったあそびを紹介します。

氷、水、花、草、お花紙を使った感触あそび

チャック付きポリ袋の中に冷やした水と氷を入れ、さらに花や草、ちぎったお花紙を入れて完成。もみもみしながら触っていると、水の色が変わります。暑い夏にお勧めの感触あそびです。(※袋は二重にしました)



新聞を使ったダイナミックなあそび

新聞で顔を隠して「いないいないばあ」をしたり、紙の匂いを嗅いだり、叩いて触って音を楽しみます。新聞をクラフトテープで貼って大きくしていき、みんなで繋ぎ合わせて1枚のシートにします。大人が持って上げると、こどもたちが下にもぐってきます。上下に揺らし風を感じ、頭で新聞を突き破って「ばあ!」。破る感触を楽しんだら、集めて新聞プールにします。

ダンボールを使った見立てあそび

ダンボールの切れ端を角が丸くなるように切ったものを使いました。はじめはダンボールの硬い感触を感じます。タライにぬるま湯を少なめにはって、ダンボールを入れます。少しずつ柔らかくなっていくので、触ってちぎりったり、層をはがし違う形の紙があるのを見つけます。最後は握って丸めてお皿にのせたらお団子のできあがり。「いただきます!」



遊びの紹介

新聞エアードーム作り

半田市 亀崎児童センター

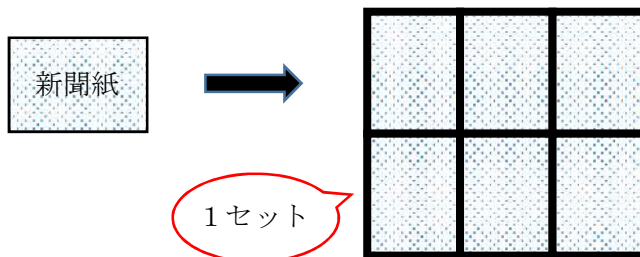
～新聞紙で大きなドームを作って、みんなで入ろう！！～

★材料・道具★

・新聞紙、45L 透明ビニール袋、クラフトテープ、大型扇風機

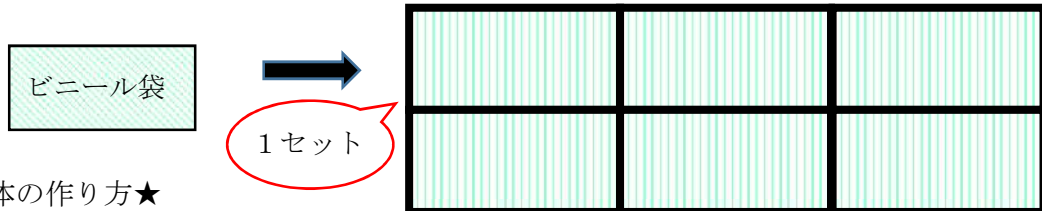
【下の部分(床)の基本的作り方】

新聞紙をクラフトテープで6枚貼り合わせる。(のりしろ約3cm)



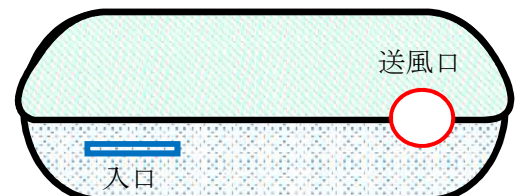
【上の部分(天井)の基本的作り方】

ビニール袋を開いたものをクラフトテープで6枚貼り合わせる。(のりしろ約3cm)



★全体の作り方★

- ① 6枚1セットを作って、膨らませる場所の大きさにあわせて、必要セット分貼り合わせていく。
- ② 送風口になる部分だけ残して、床と天井部分を貼り合わせる。
- ③ 送風口から風を送り膨らませる。
- ④ 入口をカッターで切って作り、中に入る。



※今回は天井部分をビニール袋にしたことによって、膨らみやすく中も明るいです。

令和7年度 愛知県児童館連絡協議会 被表彰者

(敬称略)

市町村名	被表彰者	市町村名	被表彰者
一宮市	西原 春実	東海市	林 うしお
一宮市	川原 亜希恵	東海市	粥川 加代
瀬戸市	酒井 糸保	知立市	佐藤 典子
瀬戸市	川村 みちよ	知立市	杉浦 寿美子
瀬戸市	坂本 友里恵	尾張旭市	坂口 直美
春日井市	波多野 美代子	尾張旭市	松本 順子
豊川市	井手 輝美	高浜市	神谷 由美子
刈谷市	牧野 恵子	豊明市	野上 あや子
安城市	岡本 由紀子	豊明市	蟹江 清美
西尾市	豊田 利恵	弥富市	緒方 美鈴
西尾市	小川 泰代	みよし市	野々部 直美
蒲郡市	安藤 優子	長久手市	山賀 尚美
小牧市	瓜生 俊基	東郷町	織田 美千代
東海市	入江 久美子	東郷町	島田 恵美
東海市	吹上 直子	豊山町	酒井 幸子
		愛知県	宮崎 恵梨

令和7年度 愛知県児童館連絡協議会 事業日程計画

月 日	内 容	開催地
6月 4日 (水)	第1回ブロック研修会 (東尾張・知多)	東浦町
6月 5日 (木)	第1回ブロック研修会 (西尾張)	大治町
6月 6日 (金)	第1回ブロック研修会 (三河)	高浜市
7月 11日 (金)	第1回児童厚生員研修会	尾張旭市
10月 10日 (金)	第2回児童厚生員研修会	一宮市
11月 12日 (水)	第2回ブロック研修会 (三河)	豊川市
11月 13日 (木)	第2回ブロック研修会 (東尾張・知多)	長久手市
11月 14日 (金)	第2回ブロック研修会 (西尾張)	清須市
11月 30日 (日)	第14回元気スイッチ on!!	安城市
2月 6日 (金)	第3回児童厚生員研修会	安城市